観光竜王

Sight seeing RYUO

第82号

☆

発行
竜王町観光協会

〒520-2592
滋賀県蒲生郡竜王町小口３番地
竜王町総合庁舎内 1F
TEL 0748-58-3715
FAX 0748-58-3730
https://ryuoh.org
e-mail info@ryuoh.org

ケンケト祭りフォトコンテスト　準特選「整える。」藤原　豊氏　野洲市

「絆を深めるまつりと観光振興」

竜王町観光協会
副会長　清　水　正　作

盛夏の候、皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は、竜王町観光協会に格別のご理解とご支援・ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年まで新型コロナにより経済活動も制限されておりましたが、本年五月より活動の活性化が期待されます。

今年度は、町内の伝統行事や祭りも三～四年振りに地域の保存継承や絆をより深める為、再開されました。

五月三日には、山之上のケンケト祭り長刀振りが昨年十二月にユネスコ無形文化遺産「風流踊り」に登録認定され、竜王町登録記念式典と祭礼が斎行され、多くのご来賓やカメラマン等散見され賑わいが戻った祭りとなりました。

昨年十二月には、米・食味分析国際コンクールが小諸市で開催され、竜王町が見事環境王国認定審査会により「環境王国」に認定されました。竜王町の豊かな自然と美しい景観を守り、雪野山や鏡山のハイキングコースの安全性や充実に配慮した整備を推進し、多くのハイカーがリピーターとして満足して頂ける様、景観眺望の充実を計ります。環境に配慮した農産物や特産物の産出と、竜王ブランドの確立による尚一層のイメージアップに繋げます。

また、竜王町の魅力発信として、三井アウトレットパーク滋賀竜王内に「竜王町観光案内所」の設置を予定しております。まちの総合案内窓口として、季節ごとの観光案内や施設・行事などの紹介、並びに観光体験事業及び農産品や特産品のＰＲやアンテナショップとしての機能も付加する計画です。

本年は、四年振りにふるさと竜王夏まつりを八月五日に妹背の里で開催する運びとなりました。観光協会と商工会はじめ行政や関係機関・各種団体で実行委員会を組織し、ふるさと竜王への熱い想いと家族や仲間との絆、地域との結びつきの必要性を再認識した、町民皆様のご参加を心待ちにし、新しい企画で検討しておりますのでご期待ください。

今後も竜王町の豊かな四季折々の美しさと雪野山や鏡山にまつわる歴史と文化と産業が一体化した魅力ある観光の町を目指して参ります。

末筆になりましたが、皆様のご多幸とご活躍を祈念いたします。

西川吉水神社への想い

竜王町歴史倶楽部
西田　征生 氏
（西川）

私は、西川の集落で生まれて八十有余年の月日が経ちました。幼いころの思い出は、春の例大祭には酔っぱらった青年団によって大太鼓が担がれ、当家の家からお宮さんまでの道中、塀や納屋の壁に当たったりしながら、お宮さんまで進んで行きます。その後から宮司さん、巫女さん、肩に帯をたすき掛けした「ごっかけ」の御稚児さん、おとな衆と続き、お宮さんまで渡御をして行きます。氏子や氏子の家でご馳走を頂いた親戚の方々などが見物をしたものです。

私たち子供は、屋台で売っているお菓子やおもちゃを買うのが待ちに待った楽しみのひとつでありました。また、秋の例大祭は、神事の後、奉納相撲が行われました。相撲に出る子供の家は、総出で豆力士を一生懸命応援したものです。

現在の祭りは、青年団や当家の家での賄い（酒宴）が無くなり、おとな衆の姿も羽織袴のほか、礼服での参加も良いこととなりました。参加者も宮司さん、巫女さん、宮総代、おとな衆、当家の関係者、御稚児さんとその家族等に限られた人々となり、昔を想うと大変寂しく感じています。

ここで、吉水神社の由緒と今も引き続き行われている行事について少し紹介をしたいと思います。

吉水神社の御祭神は、八意思兼神（やごころおもいかねのかみ）と武甕槌神（たけみかづちのかみ）を主神としています。八意思兼神は、天照大神が岩戸にお隠れになったとき、岩戸の外にお出しするための知恵を授けた神で偉大な思慮を持った神とされています。また、武甕槌神は、天照大神が大国主命に国譲りをするよう命じたとき、大国主命の子の武御名方（たけみなかた）の神と力比べをし、武器によらず国譲りを実現した神で、相撲の始祖とも言われています。この二神をもって文武両道の御神徳（学業成就・武道守護など）を受けられる神とされています。このほか、弊社として御領神社と天神社が明治から大正にかけて合祀されて祀られています。

吉水神社

現在に継承されている行事は、年八回の祭事として神事（湯立神楽）と宗仕が行われています。このほかにも、元旦には牛玉印（ごおういん）の領符、左義長、総早苗饗（そうさなぶり）、虫送り、千燈祭が関係者のご尽力で今も続けられています。

牛玉印は、柳の枝に牛玉印を押した半紙を挟み松の新枝と併せ、こよりで束ねたもので「たのとう」と呼ばれています。神棚や苗代に祀ることで五穀豊穣や疫病退散にご利益があるとされています。元旦には、本殿に置かれ、参拝を済まされた方々は、自由に持ち帰ることができます。形や呼び名は少々違いますが、竜王町内では林の常信寺、駕輿丁の地蔵堂、弓削の阿弥陀寺などで、また、三井寺などの有名社寺でも受けることができます。

たのとう「牛玉印」

また、町内では唯一の行事として、毎年九月に二百十日と二百二十日の間に千燈祭が続けられています。千燈祭は、五穀豊穣と災害無事に感謝し、拝殿の周りに「カワラケ」千燈の明かりを灯し、神前に御供餐とお神酒を供え、住民の方々が「ふじゃこ」とお神酒で酒宴を開き語り合います。

これらの行事は、今後様式は変化していくと思いますが、末永く継承されていくことを心より願っています。

シリーズふるさと探訪 63

我が忘れじの額田王

山本　茂氏（美松台）

序にかえて

一四〇〇年の昔より小説・漫画・歌劇のヒロインとして、あまた多くの人々から愛されてきた万葉の歌姫。蒲生野・鏡が生まれ郷にあって、我が忘れじの女性こそ額田王なのである。その半生を今一度、紐解いてみたい。なお、文中の歌六首は、あえて語釈を省いている。それは、読む方が詞の美しさを玩味され、静かに口ずさんで頂きたいと思うからである。

額田王は、その年齢、出自は不明である。朝廷に上がるまで、どのように育ってきたか諸説紛々があるが、近江で出生後、大和国額田部氏に預けられ養育された説が有力かと思う。

六四二年、氏女として宮廷に入り、皇極天皇に仕えるようになる。地方豪族の娘が、宮中に上がるだけに、巷間言われるように才色兼備であったに違いない。その後、六四五年乙支の変の年、額田王は二十歳（推定）で大海人皇子の添臥に選ばれ、后となる。翌年、十市姫王を生んだ。

六六〇年、朝鮮半島では、倭国（現在の日本）と友好関係にあった百済国が滅んだ。後に復興運動が展開され、救援を求められた倭国は、百済遺民軍と共に、唐・新羅連合軍と戦うことになる。翌年一月、斉明天皇は戦いを決意し、難波津を出航、伊予国熟田津で潮待ちを行う。翌三月、額田王は斉明天皇の代理にて出航の安全を神に祈る歌を詠む。船の帆先に立ち月光を背に、力強く朗誦した歌…

熟田津に船乗りせむと月待てば
潮も適ひぬ　今は漕ぎ出でな

船が朝倉宮（福岡県朝倉市）に着いたとき、斉明天皇が発病、崩御された。女帝を失った軍は、六六三年の白村江の戦いで大敗。天皇長男・中大兄皇子は、唐・新羅の侵攻を恐れ、九州・西日本各地に防衛施設として山城、水城を建設する。さらに近江への遷都を図る。遷都の途上、大和の国津神の御神体、三輪山の歌を中大兄皇子に代わって詠んだのが次の一首。遷都に気が進まない人々に共感するように歌を詠むことで、逆に民の気持ちを鎮めようとしたのであろう。

三輪山を　しかも隠すか雲だにも
心あらなも　隠さふべしや

六六七年、中大兄皇子は都を大和から近江大津宮に遷都し即位、天智天皇となった。その際、天智天皇は大海人皇子に自分の娘四人を嫁がせ、代わりに額田王を引き取り、后とした。翌年、天皇家一行は蒲生野にて薬猟を行う。その宴席の余興の場、大海人皇子の贈答歌に応えて詠む歌…

あかねさす　紫野行き標野行き
野守は見ずや君が袖振る

この時、既に額田王は四〇歳を越え、歌の世界も人生も、円熟の域に達していた。三人の天皇に仕え、二人の后ともなった。人生最良の頃ではなかったか。そんな折、このような天智天皇を待つ歌を作った。

仕事ではない素の額田王の思いが伝わってくる。

君待つと吾が恋ひ居れば我屋戸の
簾動かし秋の風吹く

だが、幸せは長く続かない。六七一年、病床の天智天皇が崩御。額田は葬送に列し大殯の時の歌を詠む。心からの鎮魂歌…

かからむと　かねて知りせば大御船
泊てし泊に標結はましを

厳しい悲劇の日々が続く。壬申の乱で実子・十市姫王の夫、大友皇子が戦死。後を追うように十市が死去。この戦いで勝利した大海人皇子が即位し、天武天皇となる。六八六年、天武天皇崩御。

晩年、故天武天皇の第九皇子である弓削皇子が縁深い吉野宮にて額田王に贈った歌に対する返歌…

古に恋ふらむ鳥は霍公鳥
けだしや鳴きし我が思へるごと

一度、帝位を退いた後、復位を望んだ蜀の望帝が、その志を果たせず、死してほととぎすと化し、往時を偲んで昼夜分かたず鳴いたとの中国の故事を思い浮かべさせる歌である。果たして、額田王が偲んだのは大海人皇子か天智天皇か？それとも故郷・鏡の郷を偲んだものなのか。

結び

少女時代から晩年まで詠い続けて四十七年。稀代の歌人として、愛深き后として、激動の白鳳期を生き抜いた額田王。彼女の出生地が、なんと筆者の住まいの近くにある。この不思議な縁を考える時、今更ながらではあるが、彼女の生涯を多くの人々に知ってもらいたいとの思いで溢れそうになる。

とは言うものの、何分の浅学の身、何を為せるか浮かばない。

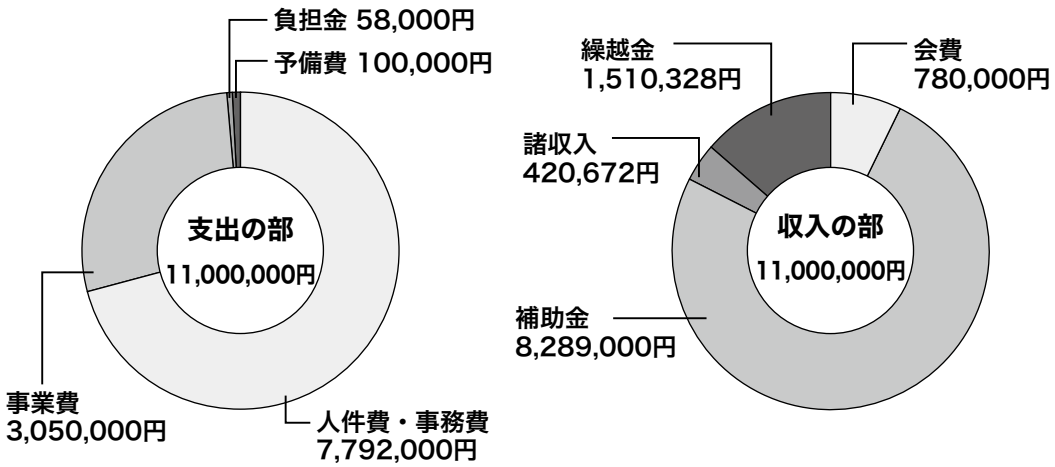
せめて例年、鏡山に来るホトトギスが初音を発する日を我、勝手に「額田王時鳥の日」と定め、一人ひっそり額田の媛を偲びたいものだ…

令和五年度の主な事業計画

【事　業】

①広報誌「観光竜王」の発行
②聖徳太子薨去一四〇〇年記念事業
③ケンケト祭りユネスコ登録記念イベント
④ふるさと竜王夏まつり
⑤三井アウトレットパークにおけるイベント活動
⑥広域観光キャンペーン観光誘客活動
⑦近隣観光キャンペーン観光誘客活動
⑧ＪＲふれあいハイキング
⑨鏡の里義経元服式
⑩竜王歴史倶楽部の活動支援
⑪竜王町ドラゴン屋台村の活動支援
⑫雪野山、鏡山ハイキングコース等の整備
⑬観光大使「近江うし丸」による観光振興
⑭観光ポスター・チラシの制作・配布
⑮ホームページ等による情報発信の強化
⑯農業体験
⑰環境王国への支援
⑱役員研修会

令和四年度の収支予算の内訳



竜王町観光協会 新役員名簿

（敬称略）

会　長	若井	冨嗣（再任）
副会長	邑地	礼子（再任）
副会長（会計）	清水	正作（再任）
理　事	井口	敏夫（再任）
理　事	岩田	英司（新任）
理　事	小野	定章（再任）
理　事	勝見	和夫（再任）
理　事	木曽	公子（新任）
理　事	谷村	明美（再任）
理　事	寺島	健一（再任）
理　事	寺島	司（再任）
理　事	寺本	育美（再任）
理　事	中村	匡希（再任）
理　事	森嶋	政文（再任）
理　事	山添みゆき（新任）	
監　事	福本	宏弥（新任）
監　事	山口	吉範（新任）
幹　事	中村	健司（商工会）
幹　事	谷村龍之介（商工観光課）	
事務局	堀江	豊造
事務局	西居	利恵

今後の観光協会イベント情報

鮒ずし漬込み体験
七月十六日(日)午前九時より
女性の家　調理室

グランまるしぇ
七月三十日(日)午前十時より
三井アウトレット　南モール
一階　センターコート

県下の道の駅大集合を計画中

ふるさと竜王夏まつり
八月五日(土)午後六時より
妹背の里

ステージパフォーマンス
江州音頭総踊り
花火打上げを計画中

ＪＲふれあいハイキング
九月三十日（土）午前十時
三井アウトレットバス停集合

あとがき

新型コロナも春先より感染状況が小康状態となり、各種規制の緩和によりヒト・モノの動きが活発となりました。

観光協会では、東近江地域と連携して繰り広げる『聖徳太子一四〇〇年悠久の近江再発見』事業で、聖徳太子御作との言い伝えやゆかりのある小口の観音禅寺や鴛興丁の地蔵堂、須恵の観音堂、弓削の阿弥陀寺、岡屋の吉祥寺観音堂に安置される仏像を巡るツアーを催行したところキャンセル待ちが出る等、好評を得たことから、今秋にもツアー催行を計画しています。

また、昨年十一月末ユネスコ無形文化遺産に山之上地区のケンケト祭りが登録されたのを記念し、語り部付ハイキングやフォトコンテストを開催し多くの反響を得ました。

今後は、四年振りの『ふるさと竜王夏まつり』開催に向け鋭意準備中です。

皆さまも観光協会主催のイベントに挙ってご参加いただきますようお願いします。

（観光協会　事務局）